発掘！南山（みなみやま）城（じょう）跡

2022

岡山県古代吉備文化財センター

小田川合流点付替え事業と南山城跡の発掘調査

南山城跡は、高梁川とその支流である小田川が合流する地点の南西、倉敷市真備町川辺と船穂町柳井原の境界をなす標高70mほどの低丘陵上にありました。

小田川流域は、これまでにも度重なる水害を受けてきました。そのため、南山城跡が所在する南山を掘削し旧西高梁川を利用することで、小田川と高梁川の合流点を約4.6㎞下流へ付替え、小田川の沿岸地域及び倉敷市街地における治水安全度を高める小田川合流点付替え事業が計画されました。

この計画に伴い、南山城跡の記録保存を行うこととなり、平成29年４月から令和元年10月に発掘調査を実施しました。

南山城跡の位置と周辺の山城跡（1/100,000）※海岸線・河川は推定　地理院タイル（標高タイル）を加工して作成

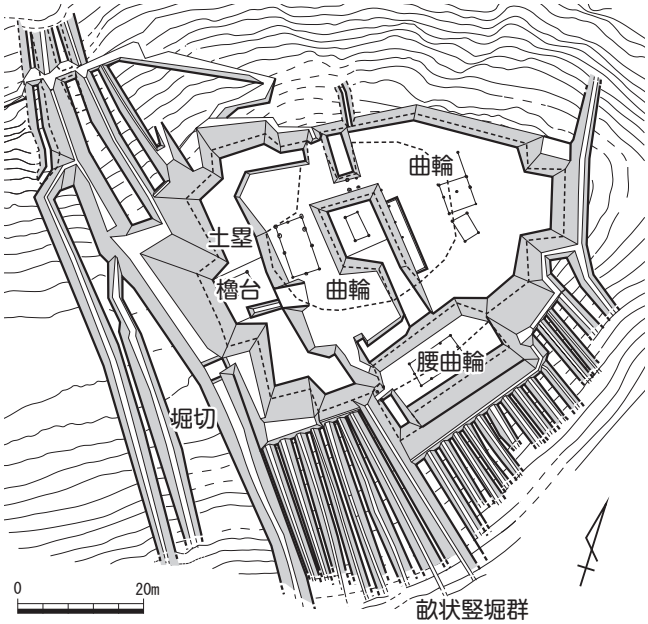
南山城跡から北を望む

南山城跡上空から南東を望む 山の向こうは倉敷市街地

南山城跡の特徴

南山城跡は、曲輪部分の面積が940㎡ほどの小規模な山城で、石垣や瓦葺き建物は存在しませんでした。しかし、丘陵の背後を三重の堀切で切断し、高さが３ｍもある大規模な土塁を築き、堀切側に突出した櫓台を設けていました。また、曲輪の外郭線は直線的で、腰曲輪も加えて幾重にも横矢を掛ける構造になっており、これに横堀や竪堀を組み合わせるといった周辺の城跡にはみられない堅牢な防御構造を備えていました。　※山城の用語は5頁参照

南山城跡を西の尾根から見ると、中央に櫓台、その両側に土塁が壁のようにそびえ立っています。手前にある堀切の底から測ると、高さは優に6mを超えていました。



南山城跡の縄張り復元図

南山城跡の南斜面には合計21条の竪堀が配置されていました。このように竪堀を連続して並べたものを畝状竪堀群と呼び、敵が斜面を横に移動するのを妨げる狙いがあったと考えられています。

発掘調査され

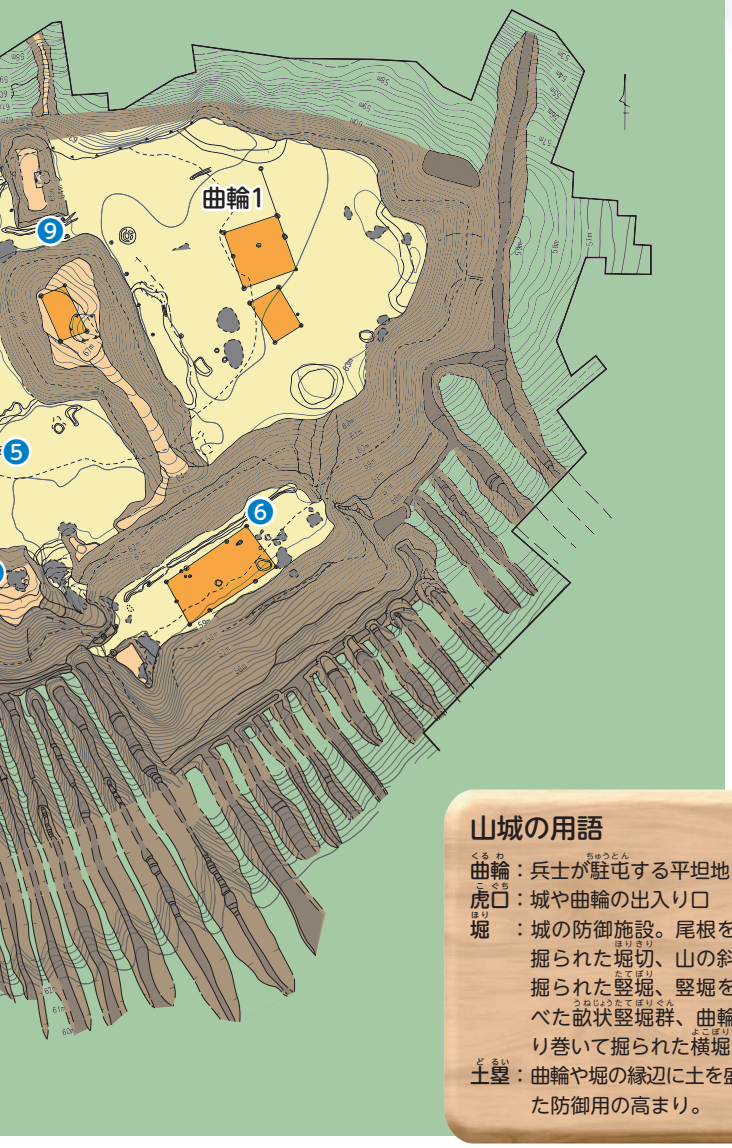
❶ 竪堀の断面（北西から）
北斜面には深さ約３mの竪堀があり、敵兵が東へ移動するのを困難にしています。

❷ 北西部の横堀（南東から）
侵入した敵兵を２方向から狙う横矢掛けの工夫が随所に見られます。

❸ 集石（南東から）
土塁上に集められた拳大の角礫は眼下の敵兵に投げつけるためのものと考えられます。

❹ 土塁の断面（南東から）
幅約８m、高さ約３mもある巨大な土塁の土層断面を観察すると、礫を含む土と含まない土とを巧みに使い分け、丁寧に盛土していることが分かりました。

れた南山城跡



山城の用語

曲輪：兵士が駐屯する平坦地
虎口：城や曲輪の出入り口
堀　：城の防御施設。尾根を断ち切って掘られた堀切、山の斜面に沿って掘られた竪堀、竪堀を連続して並べた畝状竪堀群、曲輪の周りを取り巻いて掘られた横堀がある。
土塁：曲輪や堀の縁辺に土を盛ってつくった防御用の高まり。

❺ 曲輪２の炉跡（西から）

浅い穴に敷き並べた川原石には被熱痕跡が認められ、炉として使用したと思われます。

❻ 銅銭出土状況（南東から）

17枚の銅銭が小皿の上に載せられており、地鎮のようなまつりを行ったものと考えられます。

❼ 北斜面の通路（東から）

つづら折りの通路にも横矢が掛けられています。

❽ 北の虎口（北西から）

曲輪の虎口と斜面の通路とは約１ｍの段差があり、はしごをかけて出入りしていたのでしょう。

❾ 門跡（北西から）

曲輪１と２をつなぐ通路に門跡と考えられる礎石が見つかりました。

❿ 曲輪２の掘立柱建物（北西から）

深さ約１ｍの穴に柱を立てた建物で、大きさは約8.7×4.4m、21畳敷きほどの広さがあります。

南山城跡に残されていたもの

1,000点を超える出土品には武器のほかに生活道具も多く見られ、太刀拵（たちごしらえ）に用いられたと考えられる切羽（せっぱ）があることなどから、南山城には比較的上級の武将が在城していた可能性があります。

まとめにかえて

南山城が築かれたのは、出土品や周辺の城跡との比較などから、16世紀後半頃と考えられます。また、城全体の大規模な改修は確認できなかったことから、短期間の使用と思われます。

築城当時の記録は現在のところ見つかっていませんが、天正10年（1582）の備中高松城をめぐる戦いの前後、毛利氏が高梁川以西の領国を防衛するために築いたと考えられます。さらに、毛利氏の備中支配の拠点であった小田川流域の猿掛（さるかけ）城や矢掛茶臼山（やかげちゃうすやま）城と高梁川流域の備中松山城と瀬戸内海を結ぶ交通の要衝としての役割を果たしていたのではないでしょうか。

南山城跡関連年表

西暦	和暦	主な出来事
1539	天文８	尼子詮久が備中松山城を攻撃する。
1552	天文21	尼子氏に与していた猿掛城の庄為資を三村家親が攻める。
1559	永禄２	庄為資と三村家親が和睦し、三村氏が猿掛城に入る。
1561	永禄４	三村家親が庄高資の備中松山城を落とす。
1562	永禄５	毛利隆元が備中・備後の守護に任ぜられる。
1566	永禄９	宇喜多直家が三村家親を暗殺する。毛利氏が尼子氏を滅ぼす。
1567	永禄10	宇喜多直家が明禅寺合戦で三村氏を破る。
1569	永禄12	毛利元就が高屋城などを拠点とする藤井氏の反乱を鎮圧する。
1571	元亀２	浦上氏・宇喜多氏が佐井田城・幸山城・松島城をめぐって毛利氏と争う。
1574	天正２	宇喜多直家が毛利氏と結び、これに反発する三村氏が毛利氏から離反する。
1575	天正３	備中松山城が落城し、三村氏が滅亡する。毛利元清が猿掛城に入城する。
1579	天正７	宇喜多直家が織田信長に味方し、毛利氏と敵対する。
1581	天正９	宇喜多氏が忍山城合戦で毛利氏に破れる。宇喜多直家没。
1582	天正10	備中高松城の合戦中に本能寺の変が起こり、羽柴秀吉は毛利氏と講和を結ぶ。
1584	天正12	穂田元清が猿掛城から矢掛茶臼山城に移り、宍戸隆家が猿掛城に入る。 備中南部において毛利領は高梁川以西となる。
1585	天正13	宇喜多氏と毛利氏の境界が確定する。宇喜多・毛利両氏が秀吉の四国攻めに加わる。 毛利氏が秀吉に臣従する。
1586	天正14	秀吉が毛利輝元へ主要な城以外は廃城するよう記した朱印状を発給する。
1589	天正17	毛利氏が広島城の築城を開始し、毛利元清が普請奉行となる。
1600	慶長５	関ヶ原の合戦後、毛利氏が周防・長門の２か国に減封となる。

現地説明会の様子

遠景（北東から）※提供：国土交通省

古代吉備
文化財センター
HPはこちら

編集　発行　岡山県古代吉備文化財センター
岡山市北区西花尻1325-3
電話 086-293-3211　FAX 086-293-0142
https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/
発　行　年　令和4年3月

撮影：令和元年7月